

8, 札幌.

7) 菊池 徹, 門田重利, 柳田一夫, 難波恒雄, 吉崎正雄, 木村正康: 辛夷 (タムシバ) の成分研究 (1), アルカロイド成分について, 日本薬学会北陸支部第49回例会, 1979. 12, 富山.

8) 菊池 徹, 門田重利, 花垣さやか, 末原 久, 難波恒雄: 一点廣 (Nervila purpurea および Nevilaragoana) の成分研究, 日本薬学会北陸支部第49回例会, 1979. 12, 富山.

生 物 試 験 部 門

教 授 渡 辺 和 夫
助 教 授 渡 辺 裕 司
助 手 後 藤 義 明
文部技官 萩 原 昌 樹

◇ 原 著

1) Watanabe H., Ikeda M. and Watanabe K.: Effects of a single and repeated administration of morphine on rotational behaviour model of mice and rats with unilateral lesions of nigro-striatal dopaminergic system. J. Pharm. Dyn. 2: 169-176, 1979.

2) Watanabe H. and Watanabe K.: Enhancement of apomorphine-induced rotational behaviour in rats following the combination of 6-hydroxydopamine and electrolytic lesions in the substantia nigra. Japan. J. Pharmacol. 29: 93-104, 1979.

3) Watanabe K., Goto Y. and Fujisaki H.: Possible involvement of brain GABA metabolism in the pathogenesis of experimental ulcers in the rat. Experimental Ulcer 6: 93-94, 1979.

◇ 抄 録

1) 渡辺和夫, 村中幹雄, 後藤義明: マウスの摘出胃の酸分泌測定と薬物作用, 日薬理誌 75: 44, 1979.

2) 渡辺裕司, 渡辺和夫, 池田茂美子: マウスおよびラットの黒質・線条体ドーパミン系に対するモルヒネの作用, 日薬理誌, 75: 48p, 1979.

3) Goto Y. and Watanabe K.: Influence of changes in brain GABA metabolism on experimental ulceration and gastric acid secretion in the rat. Japan. J. Pharmacol. 29: 90p, 1979.

◇ 学会発表

1) 池田茂美子, 渡辺裕司, 渡辺和夫, 菊池 徹: Tetrahydroisoquinoline 誘導体ならびに辛夷成分のマウス行動に対する影響ならびに蛍光組織化学的研究,

日本薬学会北陸支部第49回例会, 1979. 12, 富山.

2) 渡辺裕司, 渡辺和夫: 骨格筋緊張の中枢ドーパミン作動性調節機構と和漢薬作用, 第13回和漢薬シンポジウム, 1979. 9, 福岡.

3) 渡辺和夫: 漢薬厚朴の薬理, 近代漢方セミナー, 1979. 11, 京都.

4) 村中幹雄, 渡辺和夫: マウスにおけるシステアミン誘発十二指腸潰瘍の特性と中枢作用薬の効果, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

5) 渡辺和夫, 前田昌樹: マウスにおける修復期焼灼潰瘍に対するセロトニンの増悪作用, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

6) 後藤義明, 渡辺和夫: 水浸拘束ストレス潰瘍の発生に及ぼすGABAとドーパミンのアゴニスト・アンタゴニストの作用, 第7回実験潰瘍懇話会, 1979. 12, 東京.

7) 萩原昌樹, 渡辺和夫: 潰瘍修復過程に対するセロトニンの影響, 第7回実験潰瘍懇話会, 1979. 12, 東京.

8) 後藤義明, 渡辺和夫: 迷走神経刺激によるラットの胃酸分泌に対するH₂-アンタゴニスト, シメチジンの抑制効果, 第30回薬理学会北部会, 1979. 9, 仙台.

9) 後藤義明, 渡辺和夫: 数種の実験潰瘍および胃液分泌に及ぼすアミノオキシ酢酸, セミカルバジドその他のGABA関連化合物の影響, 第52回日本薬理学会総会, 1979. 3, 東京.

10) 渡辺裕司, 渡辺和夫, 藤田久代: 無麻酔, 半拘束ラットの筋電図による筋緊張亢進状態の評価, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

11) 池田茂美子, 渡辺裕司, 渡辺和夫: 中枢ドーパミン作動性旋回行動モデルに対するXanthine誘導体の作用と反復投与による反応性低下, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

臨 床 利 用

教 授 大 浦 彦 吉
助 教 授 日 合 奨
助 手 横 澤 隆 子
助 手 長 澤 哲 郎

◇ 原 著

1) 長澤哲郎, 渋谷真也, 大浦彦吉: ラット血清成分に及ぼす和漢薬の影響(第2報), 薬学雑誌 99(1): 71-77, 1979.

2) Yokozawa T., Kitahara N., Okuda S. and Oura

H. : Effect of Ginseng Principle on Pyruvate Kinase Activity in Rat Liver. Chem. Pharm. Bull. (Tokyo) **27**(2) : 419-423, 1979.

3) Yokozawa T. and Oura H. : Effect of Ginseng Saponin on Serine Dehydratase Activity in Rat Liver. Chem. Pharm. Bull. (Tokyo) **27**(10) : 2494-2497, 1979.

4) Hiai S., Sasaki S. and Oura H. : Effect of Ginseng Saponin on Rat Adrenal Cyclic AMP. Planta Medica **37**(1) : 15-19, 1979.

5) Hiai S., Yokoyama H., Oura H. and Yano S. : Stimulation of Pituitary-Adrenocortical System by Ginseng Saponin. Endocrinol. Jpn. **26**(6) : 661-665, 1979.

6) Hiai S., Yokoyama H. and Oura H. : Features of Ginseng Saponin-induced Corticosterone Secretion. Endocrinol. Jpn. **26**(6) : 737-740, 1979.

◆ 学会報告

1) 五十嵐省吾, 大浦彦吉, 岡 裕爾, 織田敏次 : ニンジンサポニンと肝のアミノ酸代謝, 第65回日本消化器病学会総会, 1979. 4, 東京.

2) 横澤隆子, 長澤哲郎, 大浦彦吉, 中川 眸, 米原久美子 : 低蛋白栄養状態における血清総蛋白・アルブミンの変動, 第33回日本栄養・食糧学会総会, 1979. 5, 東京.

3) 長澤哲郎, 渋谷真也, 大浦彦吉, 正山征洋, 野中源一郎, 西岡五夫 : 和漢薬の BUN 低下作用成分の研究 (その 1) 大黃からの活性成分の検索, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

4) 野中源一郎, 正山征洋, 西岡五夫, 大浦彦吉, 長澤哲郎 : 大黃に関する研究(V) タンニンについて(1), 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

5) 渋谷真也, 長澤哲郎, 大浦彦吉 : 大黃のアミノ酸代謝の動態に及ぼす影響, 日本薬学会第99年会 1979. 8, 札幌.

6) 日合 奨, 横山弘臣, 大浦彦吉 : サイコサポニンその他2, 3のサポニンのラット血漿コルチコステロン値に及ぼす作用, 日本薬学会第99年会, 1979. 8, 札幌.

7) 長澤哲郎, 横澤隆子, 西野由絵, 大浦彦吉 : 高速液体クロマトグラフィーによる薬用人参サポニンの迅速大量分離法について, 第13回和漢薬シンポジウム, 1979. 9, 福岡.

8) 横澤隆子, 大浦彦吉 : 薬用人参サポニンの糖, 脂質, アミノ酸代謝作用, 薬用人参セミナー, 1979. 11, 広島.

9) 五十嵐省吾, 大浦彦吉, 織田敏次 : ニンジンサポニンと肝の蛋白質代謝, 薬用人参セミナー, 1979. 11, 広島.

10) 日合 奨, 横山弘臣, 大浦彦吉 : 薬用人参サポニンの下垂体-副腎皮質系刺激作用, 薬用人参セミナー, 1979. 11, 広島.

11) 長澤哲郎, 日合 奨, 大浦彦吉 : 薬用人参サポニンの分離・定量について, 薬用人参セミナー, 1979. 11, 広島.

病 態 生 化 学

教 授	荻 田 善 一
助 教 授	中 島 松 一
助 手	山 村 研 一
助 手	片 山 和 信
文部技官	林 和 子

◆ 原 著

1) Yamamura K., Ogita Z. and Markert C. L. : Epigenetic Formation of Lactate Dehydrogenase Isozymes in the House Mouse, *Mus musculus*. The Journal of Experimental Zoology **208** : (3)271-280, 1979.

2) Ogita Z. and Markert C. L. : A Miniaturized System for Electrophoresis on Polyacrylamide Gels. Analytical Biochemistry **99** : 233-241, 1979.

3) Nakashima S., Sakai Y., Umeda Y. and Takatsu K. : Studies on Delayed Hypersensitivity to Protein Antigen. Microbil. Immunol **23**(2) : 105-116, 1979.

4) Nakashima S., Ueda Y. and Kanada T. : Effect of Polysaccharides from *Ganoderma applanatum* on Immune Responses. Microbil. Immunol. **23**(6) : 501-513, 1979.

5) 中島松一, 梅田幸男, 金田 平 : 梅寄生 (*Ganoderma Applanatum*) 多糖体の遅延型過敏反応誘導に対する効果, Proc. Symp. WAKAN-YAKU **12** : 48, 1979.

◆ 総説・その他

1) 荻田善一, 窪田裕子 : X染色体の不活性化-遺伝子量補償機構一, 代謝 **16** : 429-444, 1979.

2) 荻田善一 : 酵素変異の遺伝生化学, 遺伝学と医学 **159-191**, 1979.

3) C. L. Markert, 山村雄一, 荻田善一, 松本圭史編 : 性 I, II **720**, 中山書店 1979.

◆ 翻 訳

1) F. H. Ruddle, 北原浪子, 荻田善一 : 遺伝学と医学, 遺伝子移入とゲノム構成, 241-276, 共立出版, 1979.